

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町亀浦1066番地6		
自己評価作成日	平成30年12月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季が感じられる大自然の中で、季節を感じながらゆっくり過ごして頂いています。ホーム全体を落ち着ける佇まいとし、皆さんと一緒に過ごされる居間も、くつろげる空間を作り、それぞれのご利用者は、身体状況に応じた役割を持ち、助け合いながら生活を楽しまれています。
また、開設当初より「地域に必要とされるグループホームをめざして」地域交流に力を入れてきました。運営推進会議や「喫茶明香里」を通して地域との繋がりができ、地域に支えられ、地域の協力の下、様々な地域行事への参加ができ、毎日、豊かな生活を送っています。地域住民として、地域の避難訓練や奉仕作業などへの参加、徘徊模擬訓練や認知症サポーター養成講座など啓発活動も盛んに行い、今年度より二浦地域振興会のメンバーとなり、地区の会議や、ハイヤ総踊り(二浦地区として)に参加するなど最高の地域の中にホームはあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成24年共用デイがスタートしてから、総勢12名の入居者・利用者が職員と共に地域へ出向き、人々と繋がりがながら生き生きと生活している。その暮らしがりは家族や地域の信頼するところであり、20数名の待機者数にも表れている。入居者の感性や可能性を引き出す努力は「釣りをしたい」との思いに体力訓練をして臨んだり、切り干し大根や干し椎茸作り、つわの皮むきや柿の皮むき作業などに先人の知恵が活かされ、保存食も自ら手作りしている。一日の流れが職員主導で先行しない様、入浴時間への家族アンケートを実施して希望を聞き取り、夕食の前後に入ることで夜間の安眠にも繋がっている。保育所跡を活用した「喫茶明香里」は人々の協力を得て運営しており、地域に馴染みの場所は、引き続き憩いの場として開放されている。どの職員からも周囲への感謝の言葉が聞かれ、「自分たちが楽しくなければ入居者が楽しいはずがない」を合言葉に、今できることに最大の努力と工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の異動や新規採用で若いスタッフが多くなり、認識に差を感じるが、今までのスタイルは変えず、管理者、職員はご利用者、地域との関わりの中で戸惑った時、どうあるべきかを振り返り考える為の原点として、理念に立ち返り常に前進できるよう努めている。	理念に込められたホームの思いは職員の中にしっかりと浸透しており、入居者主体の取り組みの中に反映されている。地域行事への参加や運営推進会議を通じて地域へ啓発され、様々な所で人々の協力体制が発揮されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から地域との関わりを大切に様々な行事等の開催、参加継続を図っている。中でも定期的に開催する「喫茶・明香里」は、地域のボランティアの方々の力を借り、地域の楽しみとなっている。他にも、交流を通じて、ご利用者、職員が地域との繋がりを大切にしながら小組合いの旅行や老人会の行事等参加し、地域の中で毎日、楽しく生活を送っています。また、今年度より地域振興会のメンバーとして地域会議参加などを行い、地域づくりを地域の方々と一緒に行う機会が多くなった。	開設時より自治会に加入し、小組合の日帰り旅行にも職員と共に参加している。回覧板で地域情報を収集し、広報誌「明香里だより」を入居者と共に地域へ届けることで、ホームの日常を発信している。今年度よりの地域振興会への参入により、牛深ハイヤ祭りでの職員の活躍に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者は子供達や地域住民との交流を図ったり、地域の避難訓練や行事参加を行い認知症の方と一緒に過ごす時間を持ってもらい、認知症の方への理解を深めて頂く時間を多く取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎の定期開催の中で、ご利用者の状態や生活状況、地域交流状況をパワーポイントを活用しながら報告を行っている。地域からの要望や、防災避難訓練、地域行事についての意見を引き出し、いただいた意見をご利用者の生活の質の向上と、地域住民のために、活かせる努力をしている。	会議はリビングを会場として、併設施設との合同で開催されている。家族や地元代表者の他、小学校・消防団・医療機関などが参加し、地域色豊かな会議となっており、入居者やその日の出勤職員も全員同席している。パワーポイントで日頃の入居者の様子を紹介しながら、職員による説明が行われ、「介護安心相談員」の受け入れや、相談員からの情報が報告されている。職員アンケートの結果についても包み隠さず紹介し、処遇改善に向けた取組結果を報告しながら運営の透明性を図っている。	参加者の多い会議であり、現状では手狭であることから、会場を明香里交流スペースに移すことが検討されているが、毎回でなくともホームで開催し、これまで通り足を運んでもらい、入居者の様子を見てもらうことも必要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として地域包括支援センターから参加して頂いている。また、議事録を含めた資料を会議終了後に市へ提出したり、月1回の「明香里だより」をご利用者と一緒に包括に出向いて手渡すなどして交流も深めている。他にも事業所主催で行う徘徊模擬訓練への参加案内を行い、協力を行っている	運営推進会議には包括職員が参加しており、互いの情報を共有しホーム運営に反映させている。また、安心相談員の来所は、入居者に刺激となり「お客さんの来なはった～」と、相談員との会話を楽しみにされているようである。管理者は書類提出などで役所を訪れる際には、ホームの一員として入居者にも同行してもらい様心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての外部研修参加を積極的に行い、身体拘束委員会を中心に年間計画に沿った事業所内研修を定期的に行っている。目に見える拘束から、目に見えない拘束までを研修の中で意見を出し、みんなで考える場となっている。また、日ごろの支援の中で、身体拘束になっていないか、常に考えながら、職員一人一人が理解した上で支援を行うようにしている。職員の認識に差が出ないようにミーティングなど様々な状況に応じて話し合いを行うようにしている。	職員はホーム内の勉強会や外部研修を通じ、拘束や虐待について正しく理解し、ホーム全体で拘束の無いケアの実践に努めている。他事業所での事例などを通じ、緊急に会議を招集する際には、事前に各自が内容を把握した上で会議に臨み、活発な意見がやり取りされている。理事長や管理者は日頃から職員の声を聞き、不安や不満が無いかなど、精神的ケアにも心を配っている。	入居者の動きは職員自身が感じることが大事であるとの考えから、なるべく福祉用具やセンサーマットなどに頼らないケアを心掛けており、今後も職員の目配りや気配りで安全な生活を支えて頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束研修同様、事業所内外の研修において勉強し、日ごろの支援の中で「これ、虐待にならない？」と声を掛け合いながら、また、状況に応じて話し合い、考え、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	法中研修を、また通いの研修は行っ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修で、ひと通りの研修は行っているが、職員一人一人に認識の差があり、今後も研修が必要である。現在まで。支援するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に、ご本人やご家族の気持ちをお聞きしている。また、契約については十分に説明を行い、納得されてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診後の報告や稲穂会(家族会)や面会時に意見を聞き取るようにしている。また、運営推進会議にもご家族の代表に参加していただき、外部者との意見交換ができるように配慮し、加算変更等に関しても、稲穂会の議題としてご家族に相談し、検討後、決定するよう機会を設けたり、月1回、ご家族へのお便りで日々の状況を伝え、意見を聞ける状況にしている。	普段の面会や運営推進会議、家族会など家族が来所する機会は多く、職員は時間を見つけては家族から話を聞くようにしている。新年には家族会が予定されており、推進会議や地域交流の報告とともに、家族代表者の選出も行われることになっている。入浴方法について入居者の意見を聞き、家族にアンケートを取り、時間帯や回数など意見を確認しながら支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、理事長。管理者が参加し、会議開催を行っている。また、管理者は毎日のミーティング、月に1回の部署会議、部署研修に参加し、職員からの意見を理事長に伝え反映できるように努めている。	普段から職員が意見を言い易い環境作りに努めており、風通しのよい運営を心掛けている。理事長は職員アンケートから一人ひとりの意見を確認し、勤務時間についての課題の見直しに着手するとともに、運営推進会議でも検討事項として参加者に紹介している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行ったり、ボーナス時の自己評価、資格手当の昇給等、やりがいのある職場づくりに努めている。また、管理者は職員の要求を聞く機会を設け、出た意見を理事長に伝え、働きやすい環境整備ができる事から行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修での研修発表や運営推進会議での発表を担当制で行っている。ホーム外研修案内は、すべて回覧し、研修を受ける機会を多くしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の集まり(懇親会・研修会など)へ参加し情報交換を行いながら、楽しく交流ができる場を設け、サービスの質が向上するよう取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。入所前にご本人にお会いし、コミュニケーションを図り、本人の不安の解消や、今後の生活に対する意向の確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。上記同様に面談等により、ご家族のご本に対する思いや、当事業所に対する要望をお尋ねし、それに添うような生活支援ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。入居前面談等を密に行い、広い視点からの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らしを共にする」という視点と「生活の主体者はご利用者」という視点を持ち、関係づくりを行っているが、職員の年齢差によって一人一人の認識に差が見られる為、常に職員間での話し合いを続けていける環境が必要である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。面会時などにご家族に意向を伺ったり、ご自宅と一緒に何う等しながら、ご家族との絆を大切にされた支援を行っている。また、面会時や定期受診後の連絡時には、日頃の生活の様子や状況をお伝えしている。しかし、家族会参加のご家族が少なく、参加していただく事で、伝わるという事が伝わらなくなってきた為、もっと関心を持って関わっていただける展開を考え、ご家族との絆を保つ必要性がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。ご自宅へお連れし、仏壇、墓参りをして頂いたり、地域の方々やご兄弟、ご親戚の方々に会っていただく機会を作っている。また、行きつけの病院や美容室にお連れしたりしながら、馴染みの関係が途切れないように支援を行っている。	家族の面会や外出の機会を後押しし、入居者が家族との時間をゆっくり過ごせるよう支援している。入居者に馴染みの食材(つわぶき)は、花を愛で、茎を保存食にする昔ながらの生活の工夫が実践されている。入居者の魚釣りへの挑戦には、リスクを考えたうえで、自分たちでできる事には挑戦する心意気が、入居者に懐かしい馴染みの時間を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。居間を中心にご利用者同士が集える場所を多く作り、関わりが持てるように配慮を行っている。また、洗濯物たたみや調理活動などでできることを、していただき、其々の生活を大切にしてくださいと働きかけ、生活を送って頂ける支援に繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。入院されても頻回にお見舞いに行ったりしながら、支援を行っている。また、お亡くなりになってからも、地域交流でお世話になったり、初盆や49日などにはお参りに行き、年忌にご家族が訪ねて来て下さったりと、ご家族との関係の継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念のひとつ「あなたの思いにとことん考えとことん付き合う」の下、お一人お一人の思い、また、その瞬間の思いを大切に考え、それを把握する機会を日常の中でも多く持ち、ご利用者の「思い」を常に考えながら、本人本位となるよう支援を行っている。	リビング内は終日入居者と職員の声で賑わい、何気ない普段の会話の中で入居者の思いを組み取りながら、日々の支援やプランに繋ぐようにしている。「天気よかな～」の一言は、弁当をもってその日の外出に繋がり、ベッドでの生活が多くなられた方には、窓際にベッドを移動し、外の景色を楽しんでもらうなど、本人の思いに寄り添うことを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の把握に努め、これまでの生活をそのまま継続出来るように配慮をしている。入居前に利用されていたサービス事業所とも連携をとり、スムーズに生活が移行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めているが、身体機能低下が進んだご利用者に対する支援において、過介護になり過ぎず、有する力を見極めていけるよう、状態変化に応じた話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成を行う際、ご本人、ご家族に希望や意向を尋ね、職員と共にアセスメント、モニタリングを行い、日頃の生活の中での表情の変化や役割を暮らしに反映できるように努めている。ご家族への聞き取りでは、看取りについての意向確認を常に行っている。	入居者・家族の意向を確認し、日々の暮らしの中に入居者の喜びとされる役割(料理への関り・テーブルや椅子の制作・空き缶だしなど)を盛り込みながら、プランを立案している。半年ごとの見直しや、必要時にはその都度内容を検討し、入居者の現状に即したものとしている。家族の面会時にはプラン内容をわかりやすく説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践等を含む記録等について、職員に差があり、介護計画の見直しに十分活用できない時があるため、きちんと記録ができ、反映できるようになることが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えられるよう、日々、頑張っているが、其々のADL等によって偏りがみられるため、行事や地域交流時には、通所事業所と連携を取りながら、サービスの多様化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日、地域の中を散歩したり、地域行事(運動会や秋祭り等)に参加している。地域交流に必要な準備の手伝いや、地域の宮掃除を行ったり、できる事をできる範囲での地域貢献を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医を尊重し、入居後も継続して受診支援を行っている。また、受診の前後にはご家族に連絡を取り、受診後は結果等の報告を欠かさず行っている。個人病院がかかりつけ医の場合、看取り希望がある方については、その旨を主治医に伝えている。	本人・家族の希望するかかりつけ医にホーム対応で出かけている。地元医療機関での受診は、地域の人々と話をする有意義な時間ともなっている。定期受診は明香里対応、緊急時は病院で家族と待ち合わせ受診している。病状に応じ対応可能な医療機関や、重度化・終末期支援のため訪問診療ができる医療機関への変更など、入居者の状況に応じて家族と相談しながら適切な医療支援に努めている。職員は日頃の体調管理や食事、排泄、動きなど異常があれば、早めに主治医へ連絡を行い指示を受けている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理に努め、体調変化、異常があった場合は、主治医へ連絡、指示を仰ぎながら適切な受診や看護をうけられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー等による情報の提供、入院中は頻回に見舞い、主治医や看護師から状態を伺ったりしている。退院後は医療関係者からの情報収集を行いながらの連携を図っている。また、日頃より、定期受診時に医療関係者とは、生活状況や気になる点等を報告、相談をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会、運営推進会議でも看取りについての説明など行っている。特に家族会では、看取りを行った後、パワーポイントで看取り状況を見て頂きながら、明香里でできる看取りについての説明を行なっている。早い段階(お元気な時)から、ご本人、ご家族へ最期を迎える時の希望をお聞きしたり、面会時、ご家族と再度話をしたりと、看取りについてご家族と話をさせて頂く機会は、多くなってきている。	本人・家族の希望があればホームでの看取りを支援することを方針とし、思いや希望を職員と話し合う機会を持っている。また、家族の了承のもと、看取り支援の事例をパワーポイントで見てもらい、本人にとってより良い最終の支援を共に考える機会としている。重度化・終末期支援では、職員のメンタル面、特に夜間帯の勤務に十分配慮しており、看取り支援後は、職員よりアンケートをとり、本人を偲び、振り返る機会としている。	パンフレットに記された「実り多き人生を私達とともに・・・」の言葉は、本人や家族にとって何よりの一言である。人生の最終が近くなっても、本人の望む田んぼやみかん山にお連れするなど、ホーム職員の努力には敬意を表す。今後も入居者の思いを大切にしたいホームの変わらぬ支援を継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行ったり、個々の状態変化時の対応を定期的に話し、急変の可能性の意識付けを常に行い、急変時に対する不安が、少しでも軽減するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難訓練では、地域住民(近所、消防団)との避難訓練を行っている。また、消防団との合同訓練では、火災時の消火栓連結訓練、津波を想定しての避難訓練を実施したり、地域の自主防災訓練への参加も行なっている。	地域住民の参加・協力を得た夜間想定避難訓練や、消防団との合同訓練(消火栓連結訓練・津波想定避難訓練)を実施している。また、地域の自主訓練への参加など、災害対策へ意識を持って協力体制を築いている。熊本地震ではホームに大きな被害はなく、家族の相談を受け、避難者を受け入れるなど、ホームに出来得る貢献が行われている。安全管理の一つとして、1・15日は車と消火器の点検を入居者と一緒に行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者にわかりやすい言葉や、親近感溢れる方言を交えながら、丁寧な言葉掛けに努めている。また、上から目線で言わない。意思の疎通が困難になられた方でも、同性の入浴支援の継続を行うなど、プライバシーの確保を行っている。	入居時の呼称は苗字にさん付けで対応しているが、その後、下の名が反応が良いなど状況に応じている。職員は方言を交えながらも、丁寧な言葉使いやスピードなど、入居者が不安や不快な思いをされないように努めている。また、おしゃれや身だしなみへの支援も心掛け、整容や普段着と外出着の区別など、入居者の好みも考慮しながら支援している。食事中、汁をこぼされた方にも、心配されないような声掛けや、さりげないサポートの場面が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な活動への参加、外出や散歩、お茶の時間の飲み物の決定など、生活の中で、自己決定をしていただく機会を多くできるように其々のご利用者との関わりを大切に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床から就寝まで、一日の生活の中でそれぞれのペースを考慮しながら、毎日の生活リズムが作れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着と外出着の違いをハッキリさせ、気分を変えて頂けるよう配慮を行っている。 (着用時の衣類も希望を尊重するようにしている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが、地域からの頂き物(旬の食材など)があると、直ぐにみんなで下ごしらえをし、好みの食べ方(天ぷらや煮しめなど)に調理し、みんなで食卓を囲み楽しく食事ができるように取り組んでいる。できられる方は、食事が済んだ後の食器を職員と一緒に片づけて下さる。	季節に応じた家庭的な献立のもと、差し入れ食材は新鮮なうちに活用し、入居者に提供している。入居者に食材を見てもらい、調理方法を尋ねる事で更に食事を楽しみなものにしている。食材購入には入居者も同行している。平日は調理専任者が中心に作っているが、日曜は職員が冷蔵庫の中を確認し、腕を振っている。また、公園でのおやつタイムや天候が良ければ弁当を持って遠足に出るなど、戸外での食事を楽しんでいる。	職員も同じものを一緒に摂ることで、思いを共有しており、会話の弾む食事時間であった。また、下膳や台拭き、食器洗いなど入居者の出番の姿が見られた。継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量(個人に合わせた量)に努め、記録に残している。また、古き行事(毎月1日の小豆ご飯や七夕料理など)に合わせた献立も考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、誘導を行い、必要に応じた支援見守りにより、口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンの誘導を行っている。入所前は、紙パンツ使用の方が、入所後は、布パンツ使用となられ現在、平均介護度4.3であるが、外出時以外、紙パンツ使用はない。その成果で、ご家族の経費軽減にも繋がっている。	職員は把握した排泄パターンを共有し、誘導を行っている。外出時はリハビリパンツを使用される方もおられるが、日中は布パンツの着用を支援している。夜間は布に尿取りの併用やリハビリパンツでない不安になられる方、ポータブルトイレの使用など個々に応じて支援している。自立の継続や個別支援の充実には、本人の快適さと家族の負担軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応	たすべノ薬に頼らず 食事や水公量の調節		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事や水分量の調節、腹部マッサージ、毎朝の体操などで便秘予防に努めてきたが、身体機能の低下に伴い、薬の調節が必要となってきた状況である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望の時間に合わせて、夜間入浴支援を行っている。ご自宅での入浴時間、体調に合わせ、夕食を挟んで前後での入浴時間を取り入れている。今では、夜間入浴が定着し、ご利用者も自宅で過ごしている様な気分で入浴を楽しんで下さっている。	入浴は夕食を挟んだ前後の時間に、毎日や二日置きなど、時間帯も含め入居者の希望を確認しながら支援している。浴室内の家庭的な雰囲気を損なわないよう、重度化しても機械浴に頼らず、職員がチームワークや工夫しながら寛げる入浴に取り組んでいる。また、菖蒲や柚子の季節湯も継続して取り組んでいる	浴室内の棚に置かれたシェーバーについては、安全面からも別の場所での管理が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のご希望のスタイル(これまでの生活習慣、身体状況等)に合わせ、自由に休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬支援については、名前・日付・何職分の薬かをご本人に伝え、確認後、必要に応じた支援を行い、服用して頂いている。個々の薬の目的や副作用についての理解は職員により差があるため、都度、説明を行ない理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族からの情報等により、知った生活歴や、これまでの趣味を活かし、職員と一緒に活動を行い、生活の中での役割としている。また、共に生活する中での気づきを新たな役割に繋げてきたが、全介助が必要となってきた方への役割の構築が困難な状況である。		
49	(18)	○日常的な外出支援			近隣の散歩をはじめ、年間行事計画から

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて、お墓参りや散歩、買い物など、日々、楽しんでいただけるようしえんを行っている。毎年の地域の小組合いの日帰り旅行にも、希望者で参加を行い、地域の方々が協力をして下さっている。	近隣の散歩をはじめ、年間行事計画からも花見(桜・紫陽花他)やツツ採り、浜遊び、ブドウ狩り、夏・秋まつり見学など季節に応じた外出支援が確認された。男性入居者の希望に応えた魚釣りには、女性入居者も応援隊として同行したり、看取りの中にあっても、本人の望まれる田んぼやミカン山に登るなど職員の入居者への思いが外出支援にも表れている。	地域の方々や家族の協力も得ながら、入居者の外出が支援されている。また、配食サービスへの入居者の同行や新聞や缶などを一緒にクリーンセンターに持ち込むなど、工夫された外出も行われている。継続した取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により、受診代や日用品代を預かり管理をしている方と、ご本人の希望に応じてお小遣い程度のお金を手元に持っておられる方に分かれています。希望があると近所の店にお連れし、支払いまで自身に行っていたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、ご家族からご本人に電話がかかってくることはなくなったが、荷物が届いたときなど、電話をかけた話して頂く支援を行っている。また、バレンタインデーの手作りチョコを遠方の子供さんへ送りに行くなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が散歩に出かけ採ってきた草花やいただいた花を飾って下さったり、台所で調理をし、生活の中で匂いを感じたり、生活感や季節感を感じられる空間づくりに心掛けている。ソファやこたつを設え、好みの場所で心地よく過ごして頂けるよう支援を行っている。	玄関先には入居者と植えた花苗のプランターや、ホーム内も草花や壁面など季節を感じ心とむ空間が作られている。リビング食堂にはテーブル席やコタツ、ソファが置かれ、食事や休憩など思い思いの時間を過ごされている。ベランダに吊るされた干し大根も冬場の光景となっており、食事の一品として食卓に並ぶようである。優しい笑顔や丁寧な対応など、職員一人ひとりが居心地の良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室、リビングのソファやこたつ、廊下、テラスにはベンチや椅子などを置き、その時の気分で、好みの場所でくつろげるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、使い慣れた品をお持ち下さるようお願いし、自宅と同じような居室作りを行うことで、住み慣れた空間で、心地よく過ごして頂ける工夫をしている。しかし、ADLの低下により空間を変える必要が出た場合は、ご家族と話、承諾を頂いたところで、身体状況に応じた空間作りを行っている。(心地よい空間となるよう心掛けている。)	入居時に使い慣れた物の持ち込みを依頼しているが、家族の中には「新しい物がよかる〜?」と言われる方もあり、自宅にあるものが何より安心される事を伝えている。身体状況からベッドの位置や向きを変更する際も、家族と相談しながら行っており、出来るだけ外が見えるよう配慮している。ホームでは畳と介護用ベッドを用意しており、身体に応じて了承のもと交換を行うなど、居心地よく過ごせる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒に調理や洗濯、掃除などの日常生活が安全に送れるよう環境作りを行っている。		